



一般社団法人 日本スイミングクラブ協会

オミクロン株の特徴を踏まえた感染防止策について

加盟クラブ 各位

新型コロナウイルスのオミクロン株による感染拡大が全国各地で続くなか、厚生労働省は2月7日、全国で全面休園している保育所などが43都道府県の777カ所に上ったと公表しました。東京都内では、新型コロナウイルスに感染した10代以下の子どもの数が、1月の発表分だけで4万3,760人に上り、「感染者の4人に1人が子ども」という状況で、休校や休園が相次ぐ教育や保育の現場は感染対策に苦慮しているのが現状です。

本年1月上旬より急激に拡大した感染の多くはオミクロン株によるものであるとして、「新型コロナウイルス感染症対策分科会」から、政府に対してオミクロン株の特徴を踏まえた感染防止策について提言が行われました。オミクロン株の特性として、感染・伝播性が非常に高い一方で、若年者や基礎疾患のない者等は重症化しにくいと考えられること。また、子どもが感染しやすくなっており、学校等での感染に加え、家庭に持ち帰り、家庭内で感染が拡大する事例が見られるとしています。

提言では、最近議論の対象となっている子どものマスク着用について、「発育状況等からマスクの着用が無理なく可能とされる児童については可能な範囲でマスク着用を推奨すること」としています。勿論、十分な注意と助言と配慮を求めており、無理して着用させる必要はないとのこと。また、2歳未満児では、息苦しさや体調不良を訴えることや自分でマスクを外すことが困難であることから、マスク着用は推奨しないとしています。

オミクロン株による感染に対し、特別な感染防止対策の手段があるわけではありません。現在、各クラブで行われている基本的な対策（手洗い・手指の消毒、マスクの正しい着用、3密回避、換気等）の励行と、業種別ガイドライン（JSCAガイドライン）のより徹底した遵守が、何よりの効果を発揮します。

今回の感染症対策分科会の提言は、オミクロン株特有のクラスターの発生状況を踏まえ、感染防止策について提言したものです。JSCAガイドラインと合わせてご活用頂きますようお願い申し上げます。

以上

提言ダウンロード

<https://www.jln.or.jp/information/pdf/20220204kannsennbousisaku.pdf>